

# オリンピック記録映画特集——より速く、より高く、より強く

Documentary Films of the Olympic Games: Faster, Higher, Stronger

## 開催のお知らせ・記者発表会のご案内

会期:2019年11月26日(火)ー12月22日(日)\*月曜休館

主催:国立映画アーカイブ／特別協力:オリンピック文化遺産財団／協力:日本オリンピック委員会、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

オリンピック・パラリンピック東京大会を来年に控え、国立映画アーカイブは11/26(火)よりIOC(国際オリンピック委員会)傘下のオリンピック文化遺産財団の特別協力の下、「オリンピック記録映画特集——より速く、より高く、より強く」を開催します。

日本選手が初参加した1912年ストックホルム大会から、1998年長野冬季大会まで、計23作品のオリンピック記録映画をセレクトしました。いずれも日本の観客になじみ深い大会の記録や、芸術性を高く評価されている傑作・名作ばかりです。また、その多くは、IOCのプロジェクトによりデジタル復元され、映像も音響も細部まできわめて鮮明に仕上がったものです。これに1964年東京夏季大会をめぐる短篇ドキュメンタリーの選集も加え、企画全体では計27作品(23プログラム)を上映します。会期中には、復元担当者のエイドリアン・ウッド氏を招いて特別講演会を開催、また、サイレント映画にはスポーツ史の専門家によるライブ解説(当館初の試み)や、弁士や音楽伴奏を付けた上映も行います。映画史、スポーツ史に関心のある方々すべてにとって見逃せない特集です。二度とないこの機会に、ぜひご周知いただきますようお願いいたします。

開催に先立ち、**11月8日(金)15時30分より、記者発表会(別紙参照)も行います。**

皆様のご参加を心よりお待ちしております



『美の祭典』撮影風景©1936 / Comité International Olympique(CIO) / RÜBELT, Lothar

### 企画の見どころ

- 映像でたどるオリンピックの歴史!カール・ルイス、コマネチ、ジャネット・リン、アベベ、ザトペック…あの名選手、名場面が、美しい復元映像でよみがえる。20世紀スポーツ史の集大成。
- 100年以上前のオリンピック映像!白黒サイレントの時代から、オリンピックは映画に記録されていた。19世紀末の同時期に双子のように誕生したオリンピックと映画。スポーツ映像の発達史をひもとく機会に。
- 市川崑やレニ・リーフェンシュタールなど世界的映画監督が多数参加。オリンピックという一大祝祭イベントを独自の視点で切り取る、各監督の才気と工夫に注目。
- サイレント映画はライブ解説や弁士、音楽伴奏などをつけてわかりやすく、親しみやすく上映。



『1912年第5回オリンピック ストックホルム大会』  
 photo: © 1912 / Comité International Olympique(CIO)



『第21回オリンピック大会』  
 photo: © 1976 / AUJARD, Henry



『1998長野オリンピック 名誉と栄光の物語』photo: © 1998 /  
 Comité International Olympique(CIO) / MUNDAY, Stephen

**注目作品や、講演会・イベントなどの詳細は次ページへ**

■注目作品ピックアップ！（全上映作品については別紙のリストを参照）

●『1912年第5回オリンピック ストックホルム大会』（1912）／『アムステルダム・オリンピック大会』（1928）

現在は実施されていない珍しい競技の様子や当時の観客たちの服装の細部までが、復元映像でよみがえり、すべてが目に楽しい。大河ドラマ「いだてん」で有名になった金栗四三、三島弥彦（以上ストックホルム大会）、人見絹枝（アムステルダム大会）の姿ははっきり見ることができる。どちらの作品の上映も専門家によるライブ解説、または弁士の説明と伴奏者の演奏を付けて盛り上げる。

●『銀界征服』（1928）

臨場感あふれる競技描写に、エキストラを演出したシーンも交えて劇的に構成。山岳映画を得意としたアーノルト・ファンク監督らしく、自然描写も壮大で美しい。音楽伴奏付きで上映。

●『民族の祭典』（1938）／『美の祭典』（1938）

レニ・リーフェンシュタールによる『民族の祭典』『美の祭典』の「オリンピア」二部作は、ナチス政権との関わりでスポーツと芸術、政治をめぐる議論を巻き起こした問題作だが、人間の肉体と運動の美についての映像表現の極北として、現在も多大な影響を与えつづけている。

●『ローマ・オリンピック 1960』（1961）

開巻いきなり迫力ある空撮が観る者の度肝を抜く。その後も力強いタッチで、各競技と歴史都市ローマの魅力を表現。日の暮れた街を裸足で走るアベベをひたすらとらえるくだりは、オリンピック記録映画屈指の名場面。

●『東京オリンピック』（1965）

ズームレンズを駆使し、選手たちの内面に肉迫。戦後のオリンピック記録映画のなかで最も芸術性を取りこみ、リーフェンシュタールとは異なるスポーツドキュメンタリーの新たな美学を切り開いた。変化する東京の街と人々をとらえる市川崑独自の視線にも注目。

●『白い恋人たち／グルノーブルの13日』（1968）

競技の模様を含め、大会中のグルノーブルの街を自由闊達なカメラでまろごとらえようとする異色作。クロード・ルルーシュ監督の代表作『男と女』主題歌の作曲家・歌手チームによるオリジナル曲もふんだんに挿入される。

●『時よとまれ、君は美しい／ミュンヘンの17日』（1973）

出身国の異なる8人の著名監督が、それぞれの視点でオリンピックを描くオムニバス作品。『俺たちに明日はない』のアーサー・ペンが棒高跳びの美を切り取り、『カッコーの巣の上で』のミロシュ・フォルマンは十種競技にユーモアを見出し、『真夜中のカーボーイ』のジョン・シュレシンジャーはマラソンのかたわらにテロの残響を聴く。

●『ホワイトロック』（1977）

なんと『荒野の七人』『夕陽のギャングたち』などの名優ジェームズ・コバーンが案内人になり、競技をみずから体験して紹介しつつ大会をめぐる。プログレバンド「イエス」のリック・ウェイクマンによるサントラ盤もヒットした。

●『ハンド・イン・ハンド』（1989）／『マラソン』（1993）

イム・グオンテクとカルロス・サウラ、二人の世界的巨匠が、巨大なスポーツ・イベントへと成長したオリンピックを独自の視点で切り取り、見事な手腕で構成してみせた。カール・ルイス、セルゲイ・ブブカら、錚々たるスーパースターたちの姿をスクリーンで見られるのも感動的。ともに日本劇場未公開作。



『民族の祭典』  
photo: © 1936 / Comité International Olympique(CIO)



『美の祭典』  
photo: © 1936 / Comité International Olympique(CIO)



『ハンド・イン・ハンド』  
© 1988 / Comité International Olympique(CIO)/KUNTZ, Roland

■講演会・イベント

特別講演会「オリンピック記録映画の歴史と映画復元プロジェクト」

11月30日(土)『白い恋人たち／グルノーブルの13日』上映後 2:30pm-5:30pm (終了時刻は予定)

講演者：エイドリアン・ウッド (オリンピック記録映画復元担当者、映画復元専門家)

約25年にわたり、IOCによるオリンピック記録映画の復元プロジェクトを牽引したエイドリアン・ウッド氏を招聘し、オリンピック記録映画の歴史と復元プロジェクトの詳細について講演していただきます。

\*逐次通訳付き、入場無料

\*当日1回目の上映をご覧になった方は、そのまま講演会にも参加することができます。講演会のみ参加もできます。

サイレント映画のライブ解説・弁士・伴奏付上映

下記3本のサイレント映画は、ライブ解説や弁士、音楽伴奏を付けて上映します。これらの回は特別料金となります。

『1912年第5回オリンピック スtockホルム大会』／『銀界征服』／『アムステルダム・オリンピック大会』

**ライブ解説** 出演者：松浪稔 (東海大学教授)

スポーツ史の研究者で、『身体の近代化』(叢文社、2010年)等の著書がある松浪稔氏に、画面に合わせて選手や競技について解説していただきます。

● 12月1日(日) 3:00pm 『1912年第5回オリンピック スtockホルム大会』

● 12月3日(火) 6:00pm 『アムステルダム・オリンピック大会』

**弁士・伴奏付上映**

● 12月11日(水) 6:00pm 『1912年第5回オリンピック スtockホルム大会』 弁士：山城秀之 伴奏：上屋安由美

● 12月14日(土) 3:00pm 『アムステルダム・オリンピック大会』 弁士：佐々木亜希子 伴奏：永田雅代

**音楽伴奏付上映**

● 12月8日(日) 4:00pm／12月12日(木) 7:00pm 『銀界征服』 伴奏：柳下美恵

■開催概要

オリンピック記録映画——より速く、より高く、より強く

Documentary Films of the Olympic Games: Faster, Higher, Stronger

会期：2019年11月26日(火) - 12月22日(日) \*月曜休館

主催：国立映画アーカイブ 特別協力：オリンピック文化遺産財団

協力：日本オリンピック委員会、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

料金：一般 520円／高校・大学生・シニア 310円／小・中学生 100円／障害者(付添者は原則1名まで)は無料／国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

★ライブ解説・弁士・伴奏付上映の回 一般 1,050円／高校・大学生・シニア 840円／小・中学生 600円／障害者(付添者は原則1名まで)は無料／国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ 400円(学生)、500円(教職員)

前売券：11月12日(火)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由・各150席分)を販売します。[Pコード:550-604]

※購入方法や発券手数料等の詳細はホームページかプログラムをご確認ください。

掲載用のお問合せ先：03-5777-8600 (ハローダイヤル) 本特集のHP→ <https://www.nfaj.go.jp/exhibition/olympic201910/>

記者発表会

◆11月8日(金)15時30分～ 会場：国立映画アーカイブ小ホール ※詳細は別紙のご案内をご覧ください。

広報用画像や本特集に関するお問合せ 国立映画アーカイブ 上映展示室 白鳥・玉田・岡田

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 pr@nfaj.go.jp